

悠久

第50号

March 2017

本号の内容

- ①「グローバル人材の育成に向けて」 岡山県教育委員会 教育長 竹井千庫
- ②日中教育交流発表会
- ③これからの中国語学習 岡山中国語センター センター長 道上知弘

「日中韓民族器楽文化交流演奏会」河南省洛陽市にて



「グローバル人材の育成に向けて」



岡山県教育委員会

教育長 竹井千庫

近年、高速交通網や情報通信技術の発展に伴い、ひと・もの・情報・技術や様々な文化・価値観が国境を越えて流動化するなど、急速なグローバル化が進展し、国際競争も一層激しくなっています。また、国内においては、人口減少社会の到来により、地方創生が強く求められています。

このような変革の時代においては、日本人としてのアイデンティティを持ち、豊かな語学力・コミュニケーション能力、チャレンジ精神や異文化を理解する精神を有し、県内外において、さまざまな分野で主体的に活躍するとともに、本県の持続的発展に貢献できる「グローバル人材の育成」が喫緊の課題となっております。

こうした流れを受け、岡山県では、三月に策定した県政推進の総合計画である「新晴れの国おかやま生き生きプラン」において、落着いた学習環境を確保する中、「学力向上」と「徳育推進」に引き続き取り組んでいくとともに、昨年のG7倉敷教育大臣会合で採択された倉敷宣言の趣旨を踏まえながら「グローバル人材の育成」に取り組んで行くこととしております。

さて、論語の中には、「君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず。」という章句があります。

君子は人と理解し合うが表面的な同調はしない。小人はたやすく同調するが心から親しくなることはないという意味ですが、子どもたちにはもっと分かりやすく、「友達同士お互いに意見が違っても、意見の違いを乗り越えて理解することが大切である。例えば意見が違えばお互いに非難をしない、意見が同じであれば馴れ合いになるような友人関係は良くない。」と解説しています。これは友人関係のみならず、外国の方々とのコミュニケーションについても、同じことが言えるのではないのでしょうか。

これからの時代を担う子どもたちには、英語によるコミュニケーション能力はもとより、課題を発見し解決する力、創造性や高い志、チャレンジ精神が求められますが、その中心をなす心構えとして「自分の意見をしっかりと持って、他人の意見を尊重する」心を育んでもらいたいと切に願っております。

日中教育交流発表会が開催

二月十一日、岡山県生涯学習センターで、昨年度上海市と交流した『日中青年交流事業 STUDENT EXCHANGE』参加高校生の報告発表会が行われ、生徒十二名の内、受験や模擬試験で出席できなかった三名を除く九名が参加し、紙資料やパワーポイントを使って一人五分以内で発表した。発表会には協議会の役員や会員、またこの事業に参加して進路を変更した先輩の大学生も参加し、熱心に聞き入っていた。以下、発表内容（一部要旨）を掲載します。

（文責：編集部）

太田 ひな子

（山陽女子高等学校三年）

中国で私が撮った動画や写真で、動画をつくったのでまず見てください。（動画上映）

自分で写真を撮ったものが多かったのですが、個人的な思い出の写真とかが多かったと思うんですが、今回この交流に参加して、今まで私が持っていた中国に対するイメージは政治的な面のものが多くて、あまりいいものがなかったんですが、今回中国の家庭にホームステイさせてもらったり、同年代の学生さんたちと話をすることができて、そのイメージが今まで持っていたものよりもっといいものになっていった。自分の体験したり聞いたりしたことをしっかり正しいことを皆に伝えていけるようになりたいなと思いました。

川元 真知子

（就実高等学校三年）

今回STUDENT EXCHANGE in 上海に参加する機会をいただいて、とても貴重な経験ができました。中国の学生さんとの交流で感じたことは、勉強への意欲がとても強く、すごくエネルギーがある学生だなあと、とても刺激を受けまし

た。実際に交歓した上海第一中学では、メンタルヘルス教育に力を入れていて、学校の中に施設があり、学校の生徒はもちろん一般の市内の方も利用できるそうです。実際にさまざまな機械や施設を見ることができて、メンタルヘルス教育がどのようなものなのか体験できたことはとても貴重な経験になりました。日本の高校にはこのような施設はないので、このような施設があると、よりよい学力の向上にもつながると思いました。

私が一番楽しみにしていた書道の授業では、日本ではあまり書かれない書体の隷書を習いました。筆の持ち方や書き方が日本とは違い難しかったですが、書道の本場である中国での独自の書き方を習うことができて、とても貴重な経験ができました。バディと話していると、日本の学生と中国の学生の勉強への取り組み方の違いがあると思いました。バディは普通のことのように、学校以外の時間はずっと勉強をしていて、中国ではみんなこの生活が習慣になっていると話していました。夢があるからそのためには大学受験を基準に勉強を頑張らなければいけないと言っていて、中国の大学入試を大事に思う文化をあらためて感じました。

この訪問中に体調を崩してしまい、先生方の時間を割いてもらい、病院につきそっていたとき、上海の病院に行きました。その際、言葉がわからなくて診察は少しこわかったのですが、中国の病院の

雰囲気や治療の仕方、中国の人の温かみを知ることができました。

中国の学生を岡山へ招いたSTUDENT EXCHANGE in 岡山では、上海に訪問した時より中国の学生とより深い話をすることができました。岡山の歴史や街の雰囲気を知ってもらって、この交流を機にもっと岡山に興味を持ってくれれば、日中の交流のきっかけのひとつになれたと思います。この交流で現地に行つて直接まだ知らなかった中国の素敵なところを見つけて、そして慣れ親しんだ地元を案内することで、日本の文化のいいところを再確認できた有意義なSTUDENT EXCHANGE になったと思います。この学んだことを活かし、これからも勉学に励んでいこうと思います。ありがとうございました。

千神 理沙

（岡山県立西大寺高等学校3年）

今回このプログラムへ参加したことは、英語圏以外の国へ行く初めての経験でした。上海では様々な観光名所へ行き見るものすべてが新鮮でした。特に一番印象に残ったのは、一目目の上海雑技団です。中国以外の海外の方の観衆も多く、距離も近くてすごく迫力がありました。最初から最後まですごくスリル満点で、技術力の高さに圧倒されてばかりで、またぜひ見てみたいと思いました。

上海の学校へ訪問し、授業を体験したことでは、ただ自分が旅行で行くだけではなかなか体験できないことで、より岡山のことや日本のことを知ってもらえたと思います。それと同時に中国の学生さ

んが思っていた以上に日本のことを知っていて驚きました。校内はともきれいでエレベーターもついており、生徒のストレスを軽減させるような施設がいくつもあり、日本の学校との設備の違いを感じました。

ホームステイでは会う前から少し緊張していましたが、会うとすぐにその緊張も消えました。ホストマザーはすごく親切に接してくれてとても気さくな方でした。ホストファミリーはたくさん場所と連れて行ってくれました。水族館や博物館に連れて行ってくれたり、上海の街に連れて行ってくれてご飯を食べたりしました。上海の街は夜でも人が多くて、人口密度の高さを感じました。お互い母国語が英語ではない者同士での英語の会話は流暢といえるものではありませんでしたが、お互いがそれぞれ理解しようとして一生懸命会話をしていたので、会話で困ることはありませんでした。私はトイレなどの生活習慣の違いで慣れないところはありましたが、それを忘れるくらい充実したホームステイ生活を送ることができました。

岡山の受け入れでは二か月ぶりに再会して岡山で会うのは少し違和感があるように感じましたが、夜は一緒にお寿司を食べに行きました。ペアの子はアニメが好きだと知っていたので、二日目はアニメイトへ一緒に行きました。上海にアニメのお店はあるけれど、規模が小さいと聞いていたので、とても喜んでもらえてよかったです。それからみんなと合流してUFOキャッチャーなどで遊んで楽しんでもらえたのでよかったです。思っていた以上に二日間はあるという間で、初めての受け入れで自分がホームステイす

るより難しく感じましたが、自分にとっても家族にとっても貴重な経験ができていい思い出です。

今回このプログラムに参加して今まで以上に視野が広がったように感じました。中国へ行く前の自分はあまり中国に対していいイメージを持っていませんでしたが、実際に足を運び、自分の目で見たり感じることで中国に対するイメージを変えることができました。これからまだ行ったことのない国をたくさん訪れ様々な経験をして自分を成長させることができたと思います。

苔口 桃音

(岡山県立西大寺高等学校二年)

私は悲しくなりました。それはメディアなどで中国の環境汚染問題や品質問題、領土問題を取り上げて日本人が中国人に対してよいイメージを持つていないことです。報道されていることは事実かもしれませんが。しかし中国人がよいことをしてもあまりニュースには取り上げられません。取り上げられるのは悪いイメージを備えつけるものばかりで、ますます中国人に対する悪い先入観を植え付けています。多くの日本人が「中国人はうるさい、いつも怒っている」と言っているが、それは中国語のアクセントに四声があり、強弱のリズムが激しいからです。多くの日本人は先入観だけで中国人を差別するような目で見ます。しかしそれはただ誤解しているだけなのです。私は去年中国の大都市のひとつである上海に行きました。そこで私はとてもきれいな河を見ました。中国人の友達が「ここ

はもともと汚かったけど、日本人が手伝いに来てくれてこんなにきれいになったんだよ」と教えてくれました。中国人と日本人は私たちが目に見えないところで互いに助け合っていたのです。なぜ日本のメディアはこのようなことを取り上げないのでしょう。また「日本人ってとても親切だね、私はそんな日本や日本人が大好き」と言っていました。私は嬉しいうような悲しいような複雑な気持ちになりました。日本人は肝心な人の内面を知ろうとせず、メディアなどで受けた印象で中国人を差別していたからです。このような現状のままで日中関係は永久によくならないでしょう。解決策として、まず中国や中国人に対して関心を持ち、相互理解を得ることです。最近ではインターネットなどで誰もが発信・発言が可能な世の中であり、目に見えない相手を批判することの多い我々若者世代です。だからこそ自分の目で確かめ向き合ってほしいです。また日中関係や反日デモなど過去にあった出来事を自分には関係ないと思ってしまうのではなく、過去の歴史にふれながら私達若い世代が友好関係を築いていけば日中関係が和解されていくのは遠くないと私は思いました。

田口 麻衣子

(岡山県立笠岡高等学校二年)

私はこのプログラムで初めて海外に行く機会を得ることができました。常々海外に行ってみたとは思っていたのですが、なかなか機会に恵まれずこのプログラムを先生に紹介していただいたときには、絶対に行きたいと思って一生懸命準備

をして面接を受けて、行けると決まった時にはすごくうれしくて家でお父さんに抱きついてしまうほどでした。

私はもともと中国という国に対してはテレビやネットなどであまりいい印象はなかったのですが、中国に行くことと調べをしたときに、そんなに中国の人は怖くないんだなということを知って、あまり不安を持つことなく中国に行くことができました。

現地に着いたときに空港が大きくてびっくりしました。私はすごく田舎の町で育ったので建物の大きさととにかくびっくりして、スケールが大きすぎてここで5日間過ごすのか大丈夫かなとすごく不安に思いました。空気が悪いと聞いていて不安だったんですけど、思ったよりよくて、でも道路がすごく騒がしくて特にひっきりなしにクラクションが鳴り響いているのがとても怖くて街を歩くときに聞こえるたびにビクビクしていたのを覚えています。この音には最後まで慣れることができませんでした。街を歩く



発表風景

人もとても多くてバイクの人がヘルメットをかぶっていなかったりして日本との違いにすごく驚かされました。

学生と学校で交流した時、実際に対面してみると「私しゃべれるかな」というのがすごく不安で、向こうの学生のあいさつのときに英語がすごく流暢で「こんな子たちと交流できるのかな」という不安が大きくなりました。でも学校で授業を通して自己紹介をしたり、心理の授業と一緒にグループ活動をする中で思ったより自分の英語が通じてとても安心しました。特に活動の中で印象に残っているのは、グループに分かれてお題に出されたゲームをするという活動で、私のグループは新聞紙を小さく折ってその上にみんなで乗るというゲームだったんですが、どうやったらみんなで乗れるかなというのを相談していたときに中国の生徒と自然に会話ができてなかなか言葉で伝えづらいことを向こうの生徒さんが紙に書いて教えてくれたりしてみんなで協力してできたのが、すごく楽しかったです。

バディの家でホームステイをさせていただいたときは私にとって刺激的でした。バディの家は両親と祖父母と五人家族ですごくぎやかなお家だなあと感じました。夕飯を食べさせていただいたときにバディから「私のおばあちゃんとはともちレストランのスーパージェットだっただよ」という話を聞いてすごく楽しみにしていただいて本当にご飯はとてもおいしかったです。レストランでご飯を食べたのもおいしかったですけど、やっぱりバディのお家で食べたのがいちばんおいしかったな。今でももう一回食べに行きたいなあと思っています。バディの部屋には私が大好きなアニメのポスターが

貼ってあってすごく感動してその話で一晩中語り合うことができました。英語が通じていたかはわからないけど、すごく「あのキャラがすごいね」とか「面白かったよね」という話ができて、まさかその話ができると思ってなかったの、すごく嬉しかったです。

十月に今度は上海の人たちが日本に来たときに私の家でもホームステイを受け入れました。私の家から岡山市まですごく遠いので、バディの負担にならないかなというのが心配だったんですが、私の家に行く道中の車ではバディが大安寺高校で体験したことをたくさん話してくれたり、日本についてすごい国だねというのを話してくれて、1時間半くらいたくさんしゃべれてよかったです。家でもお父さんがつくった料理を食べてもらったのですが、おいしかったと喜んでくれてよかったです。父も中国にいいイメージがないと言ってたんですけど、最近是中国のニュースを見るたびに中国の人はいい人だよなと言ってくれるようになって、家族でいい経験ができたなあと思いました。歓送会では生徒の代表挨拶をさせて頂きました。学校の先生に添削をしてもらったり発音の練習をさせてもらったりしたんですけど、やっぱり中国の生徒の発音のきれいさとか堂々と言っているのにはかなわないなあと思ってもっと頑張ろうと思いました。出し物として剣道もやらせてもらいました。バディに私が剣道しているんだと話をしたらすごく見てみたいと言われていたので、私の好きなスポーツを紹介できてよかったなあと思いました。

私はこのプログラムを通して中国という国が政治的な面ですごくこわい国だと

思っていたけれど、一人一人がすごく優しい人たちで中国の人は温かい面があって私達日本人と大きな差はないんだなあと思いました。そして実際に自分の目で見て触れ合って知ることの大切さを知りました。私をもっと英語をたくさん喋れていたなら、もっといろんな話ができたのかなあと今でも少し残念に思われますが、それでもそのときの自分にできる最大限の努力で喋れたのでたくさんいい思い出ができました。

西田 らいひ

(就実高等学校二年)

私がこの交流会に参加しようと思った理由は三つあります。

一つ目は中国を自分の目で見て感じたいと思ったからです。インターネットやテレビ報道は何が真実かわからないものがあるので、自分の目できちんと確かめたいと思いました。

二つ目は英語で他国の人たちと交流したいと思ったからです。中国の方と英語を使ってコミュニケーションをとるということに、興味がありました。

三つ目は中国の歴史や文化に直接触れたいと思ったからです。日本人の視点からしか見えていなかった中国の歴史や文化についての見方がこの訪問後どのように変わるのか確かめたい、また日本文化についての理解も確認したいと思いました。

次に中国を訪問して感じたことをお話しします。中国の学生についていけば驚いたことは、日本のアニメに大変関心があり、私より詳しくあったことです。中国は海外からの情報に対して規制があり



熱心に聞き入る参加者

日本のアニメやテレビ番組は見るのが難しいと思っていたので驚きました。日常生活では日本の高校生と同じようにスマホを使いおしゃべりをしたり写真を撮ったりしていました。しかし日本とは違って遊びと勉強のメリハリがはっきりしているなあと感じました。そして遊びの面で友達とカフェに行ったり日本の高校生と変わらないと思いました。

ホームステイで印象に残ったことは、バディや、お父さんやお母さんが大変友好的で親切だったことです。緊張するかなと思いました。すぐに仲良くなりました。両親は共働きでどちらか時間に余裕のある方が家事をしているようでした。日本のように料理は女性がすることが多いと思っていたので驚きました。お父さんが作ってくれた朝食はどれもおいしくて、たくさん豪華な料理を作ってくれたので食べきれませんでした。また夕食は二人で外食をすることもありました。十時過ぎまで外出して夜の上海を楽しむことができました。自分の伝えたいこと

が英語でうまく伝えられず、もつと英語でコミュニケーションがとれるようになりたいと思いました。またバディは日本の文化に興味を持っているように、私ももつと中国の文化について知りたいと思いました。

岡山での交流の際、何をしようか中国から帰ってきてずっと考え再会できるのを楽しみにしていました。ホームステイでは一緒にバーベキューをしました。夜遅くまでいろいろな話をしました。中国の学生は自転車に乗らない人が多いと聞き、中国といえば自転車に乗っているイメージがあったので意外でした。また日本の食べ物は何れもとてもおいしいと言っていました。歌を歌ったり互いに好きな曲を紹介し合ったりしてとても楽しかったです。私がお風呂に入っている間に彼女は数学の宿題をしていました。宿題の多さにも驚きましたが、少しの時間を見つけて勉強しているのを見て自分の勉強の仕方を少し反省しました。次の日には京橋の朝市を散策した後、瀬戸大橋の展望台へ行き写真を撮ったりお土産を買ったりしました。午後はみんなとゲームセンターやアニメイトへ行き、ゲームセンターでは中国の学生たちは自分の好きなアニメのキャラクターの景品をとろうととても興奮していました。今回どこを案内するか考えていたとき、自分が思っていたよりも岡山の魅力を紹介できていないと感じたので、これからは岡山の魅力を紹介できるように様々な行事に参加していきたいと思いました。

そして私はこの交流を通して将来国際交流に携わるような仕事がしたいと考ええるようになりまし。高校生のうちに国際交流活動に参加することは外国語で海

外の方と交流できるようになりたいと思うだけでなく、相手の国のことを自分の目で見て体験することで視野を広げることができ様々なことに興味を持つきっかけになります。また今回私がつたえきれなかった岡山の魅力を多くの海外の方に伝え興味を持ってもらえるようにしたいです。また国際交流するのはお互いの歴史や文化を知ること大切だと思うので様々な分野の勉強も頑張りたいです。

上西 穂花

(岡山県立倉敷青陵高等学校一年)

まず私の上海についての印象なんですが、上海は出発する前はすごく都会だと思いました。行動してみても岡山よりビルとかマンションとかがたくさん建っているすごい都会だなと思うところもあつたんですが、ちょっと路地に目を向けたらしてみたら、ちょっと古びたような家があつたり、路上に洗濯物が干してあつたりして、日本の都会とはちよつと違うような印象で違和感がありました。私は中国に行つて一番印象的だったことは中国の交通事情ですが、どこに行つてもいつでもクラクションが鳴り響いていて、いつ自分が轢かれるんじゃないかとすごくドキドキしていました。それが一番私が中国に行つての本当に衝撃的なことで少しカルチャーショックを受けました。そして日本がどれだけ安全かということを確認できました。

今回の訪問で自分の中で一番変化があつたことは中国人についての印象です。私自身はそんなに訪問する前からあまり悪いイメージとかは持っていないかつ

たのですが、やっぱりテレビとかニュースとかで報道を聞いていると、日本人は中国についていい印象を持っていないなあと思っていました。それを実際に行つて確かめたいなあと思つたんですけれど、行つてみたらそんなにみんな優しく接してくれるし親切だし全然そういう悪い感じはなく日本人がそういう印象を持っているのが悲しくなりました。

ホストファミリーをみて発見したことがあるんですが、私が応募する前は中国人はいつでもケンカをしているようなイメージがあつてこわいなと思つていたんですけど、ただそれは声が大きいというだけでした。私のホストファミリーも見ていたら何をそんなにケンカしているんだろうとずっと不思議に思つていたら声が大きいだけだったということがわかりました。

今回の訪問を通して実際に自分の目で見ることが大切だなと思いました。日本人はあまり中国についていい印象を持っていないんですが、自分が体験したことを周りのお友達に伝えていこうと思いました。

瀧本 颯

(岡山県立岡山一宮高等学校一年)

今日は参加している男子が僕一人で少し緊張しています。まず僕は日本と中国との違いや驚いた点を料理と建物の二つを中心に発表していきたいと思っています。

まずは料理の面です。中国に行くまでは中華料理といっても炒飯やラーメンなどとても一般的なもののしか知りませんでしたが、実際に行ってみると驚くような

ものばかりでした。この写真のような料理の名前も思いつかないようなものばかりで、本当にこれ食べれるのかなあと心配なときもありましたが、ほとんどのものはとてもおいしくて何度もおかわりしてしまいました。また下の円盤のようなものを使っていくつかの大皿を回転させることで一つの料理を多くの人でシェアすることができるという点が日本とは大きく違っているなあと感じました。そうすることで中国の人たちは他の人とかかわりを大切に行っているんだなと感じました。それからそこまで急いでご飯を食べようという習慣がないかなあと感じたので、中国の人たちは時間に対していい意味でルーズであるなとも感じました。それから次に建物について発表したいと思います。写真が今見てみるとなかつたのですが、まず先程発表にもあつたように、中国にはいろいろな庭園があつて、その庭園を僕たちも訪れてとても歴史が深いなあと身を以て感じました。しかしそこから三〇分ほど車を走らせるととても多くのタワーやビルが立ち並んでいる場所に行つて、本当にここは同じ国なのかと驚いた場面もありました。こういうことから中国の人は昔の歴史と今の文化をうまく融合させている国であるなあと感じました。

今回の体験を通して日本と中国をいろいろな面から比べることができました。そうすることでより日本と中国の良さを感じることができ、これからはよりお互いの文化を尊重していくことが大切だなあと感じました。これから僕も将来どのような職業に就いていくか考えていくと思いますが、今回の体験をプラスにしてよりよい未来にしていこうと思います。

これからの中国語学習



岡山中国語センター

センター長 道上 知弘

はじめに 中国語学習と日本人

一九九〇年代中期からのブームが一過し、やや落ち着いた感のある日本での中国語学習状況ですが、日中関係や、日本人の中国観の絶え間ない変化に伴って、中国語教育のあり方も以前に増して臨機応変な対応が求められています。そのような時代の変化に因應べく、今年より岡山市日中友好協会付属の岡山中国語センターの体制を全面的に改革することになりましたが、その運営理念の背景をお話したいと思います。

通常「漢文」と呼ばれる古典中国語は現在に至るまで教養と結びつく形で親しまれていますが、現代中国語は日本では「軍用支那語」、「商業支那語」という当場しのぎの実用本位の外国語として学ばれ始めました。のちにこれではいけないということで、戦中から中国語教育の意識改革や環境整備が進み、一九七二年の日中国交正常化を前後して、「友好」を目的とした中国語学習が盛んになってきます。当時は中国語学習という行為そのものが「日中友好」につながるものとして、重要な友好活動の一環でもありました。

しかし、国交正常化から四十五年

が経った今日、日本と中国、そしてそれを取り巻く国際的な環境も大きく様変わりしました。時代の変化や世代の交代に伴い「日中友好」という言葉がかつて持っていた意味を失うと同時に、両国の友好増進を目的とした中国語学習も影響力を失い、それに代わって、より現実的な中国、及びその他の中国語圏の人々との意思疎通を図るツールとして重要性を増してきたと言えます。これは現在の中国語教育を考える上で不可欠な点です。

さらに、これまでは中国にとって日本は重要な国のひとつでしたので、中国側には日本語に堪能な人材が多く育成されてきました。友好活動とは言っても、日本語ができる中国人留学生や、中国側が用意する通訳に頼りきりで、こちらは会話にならない片言の中国語のフレーズを話していればすんだのです。しかし、国家としての中国はすでに日本の方を向いてはいません。親中であれ嫌中であれ、隣国である中国とはこれからあらゆる面で付き合っていく必要があります。時にはシビアな交渉も必要になってきます。そんな状況にもかかわらず、多くの場合、依然として言語面を中国側に頼りきっているという憂慮すべき現状の認識

も必要です。これは中国側に言語的な主導権を握られたまま事を進めるということですから、特にビジネスなどにおいては軽視することができません。ブーム一過後も、中国語学習者数は多少の増減こそあれ一定数は維持されていますが、このような状況に有効的に対応できる人材育成の場となり得ていないケースが、残念ながら大多数であると思われます。

現在における日本の中国語教育においてまず課題とすべきは、前述のような状況下でいかに学習者のモチベーションを高め、中国や中国語に積極的な関心を持たせるか、ということです。いくら教学面に力を注いでも、学習者の自主的で能動的な中国語学習への姿勢を喚起しない限り、教える側と教わる側双方が莫大な時間と労力を浪費するだけで、望ましい成果が得られない結果となってしまう。

大学での 中国語教育の現場から

小学生の頃より中国語を学び始めた私は中国語教育に従事した経験を大学入学以前より持っていますが、その参加者のほとんどが自発的な動機で取り組む民間の教室と比べ、大学では年毎に学生の中国語科目選択のモチベー

ションが低下、もしくは停滞していることを強く感じていました。授業開始時に明確な動機と目的意識を述べる学生は減少の一方であり、その大部分が「両親や先輩などから勧められた」という他律的な理由、さらには「他言語に比べると簡単そう」、「消去法で選んだ」あるいは「別に理由はない」と答える者も年々確実に増えている傾向にあります。

これは中国、あるいは中国語に対する具体的なイメージを持たずに、ただ中国語を履修すれば就職に有利であるという安直な理由付けが、学生はもとより、その家庭や周囲の環境にも根強くあることを示しています。「中国が経済的に発展しているから」ということを動機に挙げる学生も増えましたが、現実の中国に対する関心が希薄であるために、その中国の経済発展と自分の進路とを具体的に関連づけることができず、最後まで明確な目標を見出せないまま履修期間を終えてしまう場合が多く見られます。こうした中国語履修者の増加につれて、他律的で無気力な学習者もあわせて増えてしまったことは中国語ブームが残した深刻な弊害のひとつと言えるでしょう。

その対処策のひとつとしては、すでに「国際語」として安定している

英語などと違い、中国語はやはりいまだ中国の文化的な背景とは不可分な関係にあることから、授業開始後にはもちろんですが、開始前にも履修者にある程度の具体的なイメージを抱けるような材料を提示することが有効であると考えています。中国への旅行や留学を積極的に行う学生は全体としては極めて少数に過ぎず、中国への関心を漠然とは持ちながらも、それをうまく具体化できていない学生がほとんどですので、こうした点を教員個人に任せるのではなく、統一したカリキュラムとして意識的に補ってゆく努力が必要です。

また教学面においては、自由闊達な意思疎通の根底には正確な発音の習得が大前提であるという立場から、入門者に発音を徹底的に習熟させてから次に進ませるという方式を採っています。自由に授業内容を設定できるクラスでは発音重視の進め方を採り、他の進捗制約のある授業との比較において相応の成果をあげることができました。入門時に発音の習得に適切な指導のもとで時間と労力をかければ、初級後半から中級以降にかけてのレベルアップの速度と質において顕著な効果があり、せっかく高等な表現を覚えてもそれを実際に使えなかったり、リスニン

グ力が他の能力に追いついていなかったりという中級以降に起こる慢性的な弊害も最大限に抑えることが可能です。

新しい「日中友好」のための中国語

以上は大学での中国語教育に従事した際に得た所感ですが、これは他の学習環境でも通底することだと考えています。中国語母語話者になりたくて届く発音、自分の言いたいことを貫いて支える文法理解と語彙力を身につけることは最低限の学習目標ですが、それだけではなく常に中国人の生活や思考様式が見えてくる学習を心がける必要があります。これまでのように中国語を学んでいく、ということだけで満足せずに、その学んだ中国語で何をするか、何を伝えるかというところに意識を移すと、必然的に生身の中国人を相手にすることを想定した学習態度にならざるを得ません。そして教条的な「日中友好」ではなく、実際に仲良くなるためには、楽しいことばかりではなく、時には口論も辞さない主張をはっきりと行うことも必要です。それを相手の日本語で行うのか、自分の中国語で行うのか、それとも通

訳を介すのか、それぞれの持つ意味を深く考えてみるものが肝要です。当センターはそのようなコミュニケーションのための中国語の普及を目指します。中国語には「不打相識（本当にお互いを知るためにはケンカが必要）」という諺がありますが、「通じる」だけではなく、そういう建設的な「ケンカ」に耐えうる文化理解に裏打ちされた実践的な中国語をぜひ岡山の方々にも身につけていただき、日中交流の新たな拠点のひとつとして岡山を育ててゆけるよう努力したいと考えています。

岡山で生まれて28年

世界の人々との交流 旅をサポートします

- 中国東方航空で上海へ! 上海経由で中国・世界各地へ!
- 大韓航空で韓国ソウルへ! 仁川空港経由で中国・世界各地へ!
- 台湾・香港直行便も手配
- 特徴あるこだわりのツアー
中国、ミャンマー、ラオス、ベトナムなど皆様のご要望に沿った旅行企画をいたします。
安心の添乗員同行ツアーです。
- 日中教育交流のサポート
企画から旅行実施、中国語のできる添乗員までサポートします。

★お気軽に
お問合せ下さい



株式会社アジア・コミュニケーションズ
ASIA.COM 観光庁長官登録旅行業第1816号 ©JATA正会員 IATA公認
岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル4F (〒700-0902)
TEL (086) 231-0334 FAX (086) 222-7732
http://www.asicom.co.jp Eメール info@asicom.co.jp



岡山商科大学孔子学院



中国語講座

2017年度前期 8レベル展開 計18回
(2017年4月7日～8月28日)
※途中からの受講可能



特訓コース

新HSK試験5級をめざす
月・水・金曜日 計90回



子供向けコース

毎週土曜日(11:00～12:00)
全15回



出張中国語講座

簡単な日常会話から本格ビジネス中国語まで
対応します。内容は相談に応じて調整いたします。



出張中国文化講座 (開講料無料)

岡山県内の小学校、中学校、高校及び公民館を
対象とした出前中国文化講座を開講いたします。

お問い合わせ／お申し込み 岡山商科大学孔子学院 〒700-8601 岡山市北区津島京町2丁目10-1
TEL 086-256-6670 (直通) FAX 086-255-6947 <http://www.osu.ac.jp/koushi/>



学校法人 中国学園

中国学園大学

- 現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●国際教養学部国際教養学科
- 大学院(現代生活学研究科 子ども学研究科)

中国短期大学

- 総合生活学科 ●保育学科 ●情報ビジネス学科 ●専攻科(介護福祉専攻)

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993
<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

学校法人 加計学園

岡山理科大学附属中学校

ひとりひとりの能力を最大限に引き出し、自らの夢を実現しようとする人間を育てます。

- ◎中高一貫クラス：中高6年間をフルに活用して、難関国公立大学進学をめざします。
- ◎高校進学クラス：岡山県内初！私立の中学校から難関公立高校・難関私立高校進学をめざします。

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
岡山理科大学附属中学・高等学校 中高入試広報室
TEL (086)256-8527 FAX (086)256-8526

赤ちゃんからお年寄りまで、
ひとりひとりの「よく生きる」のために。

ベネッセグループは、教育 / 語学 / 生活 / シニア・介護の分野でお客さま一人ひとりの「Benesse」を支援する事業を展開しています。

Benesseは、ラテン語の bene(よく) と esse(生きる) を一語にした造語です。

<http://www.benesse-hd.co.jp/>

株式会社 ベネッセホールディングス

岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17

東京本部 〒163-0416 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング16F

Benesse®

岡山県日中教育交流協議会 会報『悠久』第50号

発行：平成29年3月／発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086) 225-5083 / FAX (086) 225-5041